

# 鳥の献上に関する文書を読む 解答

史料1「近世」二月十五日「徳川家康御内書」

〔旗本加藤家文書No.四〕

為年頭祝儀

白鳥一到来

祝着被思召候

猶加ゝ爪可申也

二月十五日 ○

（家康黒印「無悔無損」）

加藤喜助とのへ

## 【読み下し】

年頭祝儀として

白鳥一つ到来、

祝着に思し召され候、

猶加ゝ爪申すべくなり

二月十五日 印

加藤喜助どのへ

史料2「近世」二月十五日「御用」（落鶴頂戴）

〔会田家文書No.六三四三〕

一筆申入候、此程  
被相達候落鶴被下二も  
相成候義も有之、會田  
榮治郎母久二病氣  
二付少々為戴度旨内存  
之趣、取扱相濟被下候  
二付、則為持差遣候  
同人江被達可有之候、尤  
御内々之儀二付御礼  
之儀者此方二而取計  
置申候、仍之申達候、  
恐々謹言

前田次左衛門

正月廿一日

岡権右衛門

北澤治部左衛門殿

【読み下し】

一筆申し入れ候、此の程  
相達せられ候落鶴下されにも  
相成り候義もこれあり、會田  
榮治郎母久に病氣  
に付少々戴かせ度旨、内存

の趣取扱相済下され候  
に付、則ち持たせ差遣わし候  
同人へ達せられこれあるべく候、尤  
御内々の儀に付御礼  
の儀は此の方にて取計らい  
置き申し候、之に依り申し達し候、  
恐々謹言

前田次左衛門

正月廿一日

岡権右衛門

北澤治部左衛門殿